

氏 名	鹿 野 修 一 しか の しゅう いち
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 記 番 号	論 医 博 第 360 号
学位授与の日付	昭 和 42 年 5 月 23 日
学位授与の要件	学 位 規 則 第 5 条 第 2 項 該 当
学 位 論 文 題 目	妊婦のビタミンB ₂ 代謝に関する実験的研究 特に脂質代謝と関連して
論文調査委員	(主 査) 教 授 西 村 敏 雄 教 授 早 石 修 教 授 藤 原 元 典

論 文 内 容 の 要 旨

著者は本邦妊婦自体の B₂ 代謝を特に脂質代謝との関連において追求すべく、正常妊婦を初期、中期、末期の3群に分類し、これらに末期における妊娠中毒症例をも相加え、非妊婦を対照として、遊離型 B₂ (FR) および脂質を単独あるいは併用負荷し、この際の母体静脈血、臍帯静脈血、尿、絨毛組織、胎児肝臓および羊水につき FR およびエステル型 B₂ 量を測定し、一定期間高脂肪食摂取後についても同様検討した。

その結果正常妊娠時では、特にその末期において脂質負荷による母体血中エステル型 B₂ 濃度の低下度は軽減されており、臍帯静脈血ならびに絨毛組織、胎児肝臓においてもほぼ軌を一にした動きが認められ、この際尿中排泄エステル型 B₂ 量の減少傾向も軽減されていた。しかるに晩期妊娠中毒症時では母体血、臍帯静脈血においてエステル型 B₂ の低下度は正常妊娠末期ほどには軽減せず、以上と絨毛組織における所見を総合して、晩期妊娠中毒症時では胎盤絨毛組織においてエステル型 B₂ の水解機構そのものに少なくとも何等かの障害のあることを推論した。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本邦妊婦につき B₂ 代謝と脂質代謝との関連を追求したのである。遊離型 B₂ を負荷すると妊娠時では時期を追って血中における遊離型 B₂ そのものは減少、エステル型 B₂ 量は増加する。尿中排泄 B₂ とくにエステル型 B₂ 量ではこれとは逆に減っている。しかるに晩期妊娠中毒症時では血中におけるエステル型 B₂ の増加は少なく、尿中への排泄 B₂ 特にエステル型 B₂ 量は多い。遊離型 B₂ と脂肪乳剤、これらを一定期間高脂肪食投与後再び負荷しても全く軌を一にした所見が得られており、この際非妊時や妊娠初期においては妊娠末期に近似した動態にあることをも認めた。しかるに晩期中毒症時ではかかる機序に支障のあることをみている。胎盤絨毛組織は総 B₂ とくにエステル型 B₂ をとりこみ、水解して主として遊離型 B₂ の型において胎児に送り胎児肝はこれをエステル化し、正常妊娠時ではとくに末期において

これらは旺盛に行なわれていると推察している。しかるに晩期妊娠中毒症時ではかかる処理機構そのものにも重大なる支障のあることを認めている。

以上本論文は学問的に有益であって医学博士の学位論文として価値あるものと認定する。